

清流

復活へ

大和川の挑戦

「日本一汚い川」からの脱却

家庭からの生活排水。そのまま川へ流せば水質

流す污水管と、汚水を処理する終末処理場、ポン普及率が11~13%程度だ

公共管への接続が鍵

汚濁が著しいのは言うまでもなく、きれいに処理することが必要だ。処理には下水道など集合処理施設と個別処理施設である浄化槽(合併)がある。

プ場から成り立っている。処理場では、微生物など働きによって汚水中の有機物を分解し、きれいになった処理水を消毒して放流する。

った昭和五十二、五十三年ころは生物化学的酸素要求量(BOD)が19以上を記録。ところが、下水道普及率74・8%の平成十九年にはBODが4・7にまで改善されている。

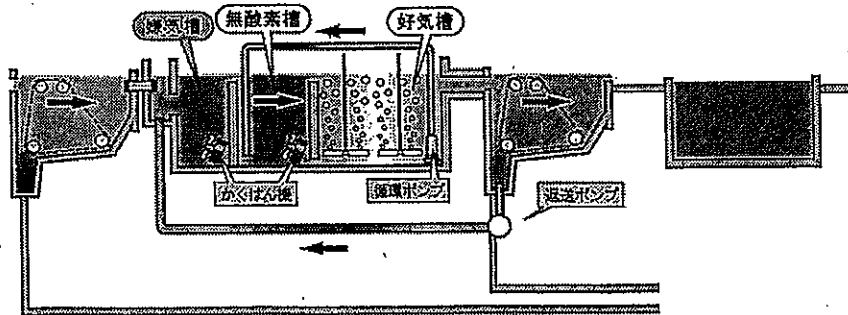
水域に放流されてしまっている。古くに下水道に着手した都市で多く採用され、その改善対策が進められている。一方、公共下水道管の工事が完了しても、各家庭の排水管と接続しない下水道としての効果を

流式がある。分流式は、家庭や事業所から発生した汚水は排水専用の管きよを通じ、雨は雨水専用の管きよを通して河川に放流されるのに対して、合流式は同一の管きよで送る。

現在合流式が主流。合流式は雨天時には処理しきれない汚水が公共用

下水道には分流式と合

下水道のしくみ



發揮できないが、接続率費用負担の事情などにより87・4%にとどまる。り接続していない人が約十二万五千人もいる。接続できれば大和川の水質改善の一助となる。

下水処理場の仕組み

県下水道課は「流域市町村には接続費用の貸付制度もあるの、利用してもらいたい」と話している。大和川の水質改善のためにも接続率のアップが求められる。 毎月1回、下旬に掲